

# 集落ぐるみの対策に向けた段階的な合意形成

## 村田町小泉地区



対象  
獣種

イノシシ

### 地区の概要

- ・約 300 世帯。
- ・多面的機能支払交付金の活動。
- ・主にイノシシによる水稻の被害。
- ・圃場の規模が農業者によって大きく差がある。そのため、設置や管理の体制をどのように構築するかが課題。
- ・農業者以外の住民も多く、電気柵設置に反対意見や苦情が出たことがある。

### 取り組み前の状況

#### ● 環境

- ・村田町の中央を縦断する荒川沿いに広がる平坦な圃場地帯にあり、小泉地区は荒川の東側に位置している。
- ・圃場は、川沿いの広い一帯のほか、主に住宅が並ぶ山沿いにも点在している。



平坦な圃場地帯



山際の住宅と圃場

#### ● 被害と対策

- ・荒川沿いの出没情報もあるが、ほとんどは東側の山沿いの出没で、被害も集中している。
- ・個別に電気柵などを設置しているが、維持管理も個人によって様々。
- ・住宅地に近い電気柵は、通行人への配慮のため夜間みの通電にしている。



圃場に向かう獣道



管理されていない電気柵



電気柵の周知看板

### 取り組み内容

R3

#### ワークショップ① 対策の基本を学ぶ研修会

- ・生態や対策の基本などについての座学研修を開催。
- ・非農家の方の理解も重要であることを参加者で共有。



ワークショップの様子

## 取り組み内容

R3

### 集落点検

- 被害状況や移動経路、誘引物などの現状を把握するため、集落内を点検。
- 座学研修をきっかけに、電気柵の管理不足を再認識。
- 現地で記録した情報を地図に落とし込み、現状を共有した。

電圧が低い電気柵 (0.4kV)



集落点検の様子



作成した集落点検マップ

R3

### ワークショップ② 対策案の検討

- 初めは、全域に出没していることもあり、集落全体に電気柵を設置する案をベースに検討。
- その後、対策の重要度や維持管理の労力などを考えて、荒川沿いの設置は見送ることに。
- 最終的に、地区内の新たな設置希望者を加え、令和4年度に約13kmの電気柵を設置する計画となった。



最初の設置計画案



最終的な設置計画

R3

### ワークショップ③ 対策計画の作成



R4

### フォローアップワークショップ

- 6月に、納品業者の指導のもとで電気柵が設置された。
- 継続的な対策を支援するため、実施後の現状分析調査を行なった。調査は、収穫後の11月であったが、不適切な維持管理やイノシシの侵入痕跡が確認されたため、フォローアップワークショップで改善指導をすることに。
- 今年度は、深刻な踏み倒し被害などはなかったが、地区の中央部でイノシシに侵入されたとのことであった。
- 1ヶ月に1回の地区全体での定期的な草刈り（参加人数は50名前後）と、個別の除草剤散布を行なってきたが、収穫後の維持管理については各住民に任されている。
- その他、日常的な管理についてもゲートを閉め忘れる人がいるなど、地区全体で意識が統一されていないことが悩みとのことであった。
- 参加した住民からは、現状分析調査結果の資料が客観的で、住民に伝えやすく非常にありがたいとの意見があった。春先の地区の総会で配布し、次年度に向けて改善を図ることとなった。



維持管理不足の電気柵



ワークショップの様子と被害箇所

## 成果と取り組みのポイント

### 改善を繰り返しながらの段階的な対策体制の構築

設置して1年目ということもあるが、基本的な維持管理方法や対策意識が地域で統一されていなかった。地区の体制が最初から万全で、すぐに効果が発揮されるとは限らないため、対策をしてみて得られた効果や反省などをふまえ、自分たちができる体制を構築していく必要がある。対策が上手くいかなかったと思われなくても、客観的な立場からの指摘や振り返りの機会を設けて、地区の自立を支援するフォローアップが有効。